

吾妻川流域 情報マップ

〔砂防工事の安全対策のために過去の土砂災害や地形・地質、気象などの情報提供と土砂災害危険箇所をマップ化したものです。〕



平成16年浅間山の噴火



長野原出張所
〒377-1304 群馬県吾妻郡長野原町
大字長野原1346-8
TEL.0279-82-2138 FAX.0279-82-3490



榛名出張所
〒370-3334 群馬県高崎市
本郷町2246-7
TEL.027-344-0929 FAX.027-344-2434



片品出張所
〒378-0415 群馬県利根郡片品村
大字鎌田3952
TEL.0278-58-2061 FAX.0278-58-4036



浅間山出張所
〒384-2104 長野県佐久市甲1399番地
佐久市役所浅科支所3階
TEL.0267-58-1080 FAX.0267-58-1082



●JR波川駅より 伊香保温泉行元町バス停で下車 徒歩5分
●関越自動車道 波川伊香保インターチェンジより15分

国土交通省 関東地方整備局
利根川水系砂防事務所
〒377-8566 群馬県波川市波川121-1
TEL.0279-22-4177(代) FAX.0279-23-4791
<http://www.ktr.mlit.go.jp/tonesui/>

利根川水系砂防事務所

本紙の内容に関する問い合わせは下記までお願いします。

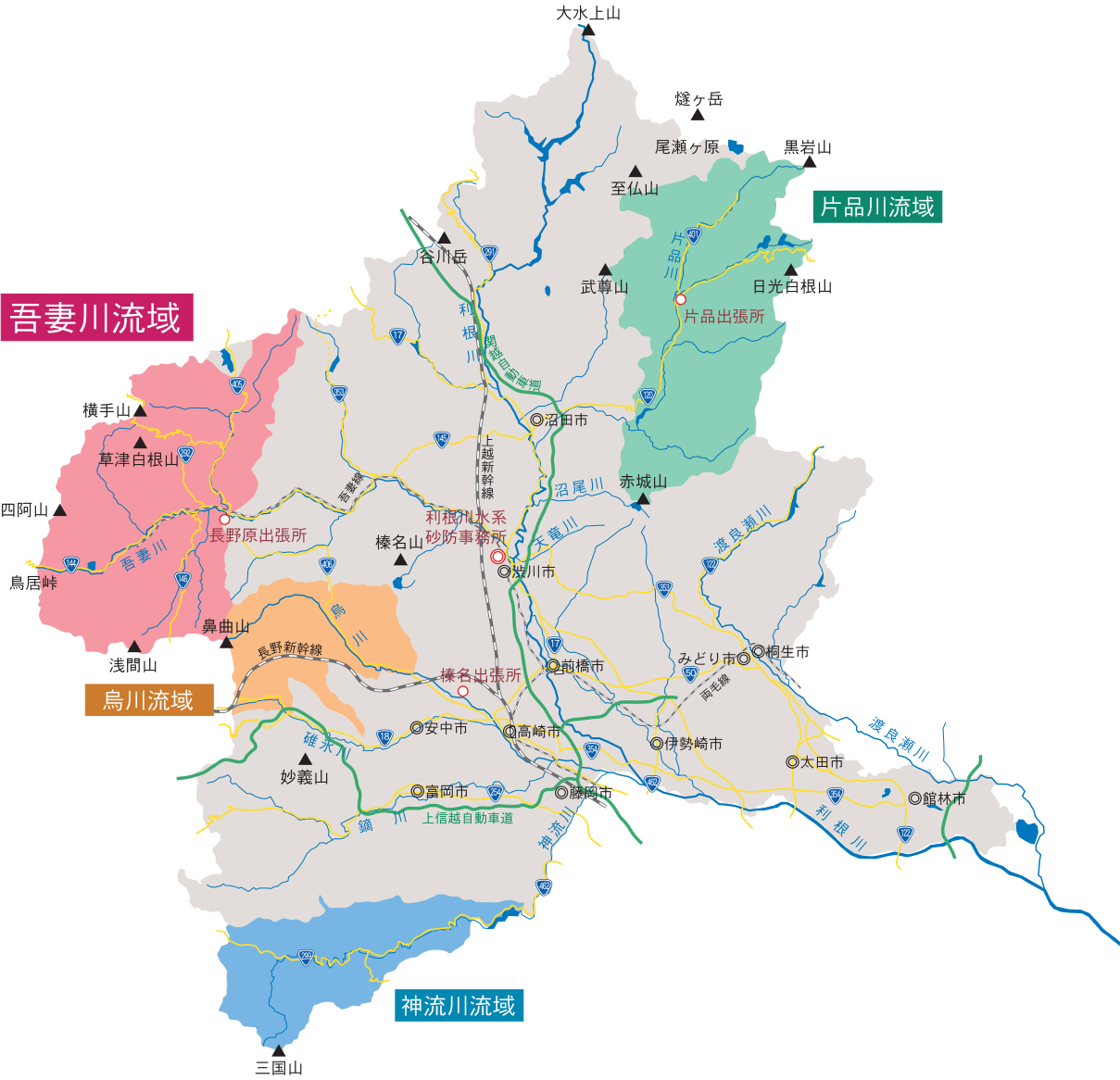
利根川水系砂防事務所 工務課 TEL.0279-22-4995 **長野原出張所** TEL.0279-82-2138

流域のなりたち

■ 吾妻川流域のなりたち

吾妻川は、群馬・長野県境の鳥居峠に源を発し、流域面積1,274km²、幹線流路延長76kmで、利根川上流の支川の中では烏川に次いで広い流域面積を有します。吾妻川流域は群馬県の北西部に位置し、草津白根山や浅間山の麓に

高原が広がり、キャベツなどが栽培され、草津温泉をはじめとする数多くの温泉が湧出しています。吾妻川流域の直轄事業区域としては、嬬恋村、草津町、長野原町、中之条町(旧六合村)が含まれます。



■ 吾妻川流域概要表

水系名	河川名 (第1次支川)	幹川名 (第2次支川)	渓流名 (第3次支川)	流域 面積 (km ²)	流路 延長 (km)	平均 河床 勾配	地 層	林 相	水 源	摘 要
利根川	吾妻川	白砂川	長笹沢川	39.04	15.7	1/12.9	花崗岩類、閃緑岩類	シラビソ、オオシラビソ、ブナ、ミズナラ、カラマツ	鉢山	
			湯川	32.52	10.8	1/9.6	デイサイト質・流紋岩質降下火山灰、凝灰角礫岩、火砕流堆積物、火砕丘	シラビソ、オオシラビソ、ブナ、ミズナラ、カラマツ	－	
			大沢川	10.16	11.3	1/8.6	安山岩溶岩	シラビソ、オオシラビソ、カラマツ	白根山	
			谷沢川	12.50	11.0	1/8.7	安山岩溶岩	シラビソ、オオシラビソ、カラマツ	本白根山	
			小雨川	5.50	5.2	1/6.9	デイサイト質・流紋岩質降下火山灰、凝灰角礫岩、火砕流堆積物、火砕丘	ブナ、ミズナラ	－	
			駒ヶ沢	9.31	7.7	1/12.9	丹波層群上部および相当層	カラマツ、アカマツ、クロマツ シラビソ、オオシラビソ、カラマツ	－	
			湯尻川	0.00	9.4	1/8.6	安山岩溶岩	ブナ、ミズナラ、カラマツ	西麓／登山	
			大横川	10.17	9.6	1/7	安山岩溶岩	シラビソ、オオシラビソ、ブナ	四阿山	
			千俣川	34.13	12.5	1/10.3	安山岩溶岩	ミズナラ、カラマツ	浦倉山	
			万座川	81.25	20.7	1/15.7	安山岩溶岩	シラビソ、オオシラビソ、ブナ、ミズナラ、カラマツ	万座山	
			遅沢川	14.55	12.6	1/8.2	安山岩溶岩	ブナ、ミズナラ	本白根山	

※流域面積は管内図及び土砂表より、地層は関東地方土木地質図解説書より、流路延長・平均河床勾配は管内図1/50,000より算出

吾妻川流域の火山・地形

群馬県の地形

群馬県は、県土の約80%を山地丘陵地が占めており、そこを流下していく利根川本支川に沿って河岸段丘や沖積地が形成され、人々の生活の場となっています。

一方、山地は非火山性山地と火山性山地から成り立っています。非火山性山地は、南西部の関東山地、北西部の三国・帝釈山地、東部の足尾山地などです。火山性山地は、群馬県の地形を特徴付ける重要な要素であり、第四紀に属する比較的新しい赤城、榛名をはじめ、武尊、子持、小野子、草津白根、浅間、鼻曲など多数の火山が、県中央部をほぼ北東から西南に横切って帯状に並んでいます。これらの山地の前山として岩井田、岩野田、丹生、小幡などの丘陵地が分布し、背後には日本海側と太平洋側とを分ける脊稜山脈がそそり立っています。標高にして100～2,500mと大きい比高を示すこれらの山地は、群馬県の自然景観の美しさを構成し、特に成層火山はその景観的な秀麗さをもって、群馬県を代表しています。



浅間山 [写真：宮崎禎治氏]



草津白根山 [写真：宮崎禎治氏]

吾妻川流域の地形の特徴

- 左流部……白砂川以東は壮年期地形。白根、横手山をきざむ谷はV字型。
- 右流部……浅間山を中心とする山地部と山麓部のゆるい台地。



吾妻川流域の地質

■地質について

利根川流域のなかでも群馬県の地質構造は複雑で、三波川結晶片岩や山中地溝帯など、日本列島の地質構造を代表する岩石や地質構造が分布しています。

南北に走る構造帯は東から足尾帯、片品構造帯、上越変成帯があり、これらを東西に切るように走るのが三波川帯、秩父帯です。群馬県では、これら古生層以降の地質が最も古く、群馬県の背骨を形成しています。こうした背骨の地質は、本州地向斜とその後の本州造山運動の過程で形成されました。

赤城、榛名、子持、小野子や、浅間、草津白根、武尊などの諸火山は、いずれも第四紀に入ってから陸上で噴火を始め、洪積世の末頃にはほとんど完成していたとみられています。各火山の噴出物はそれ以前の地層・岩石を広く覆って、それぞれの火山層を形成しました。



浅間山

■群馬県の地質



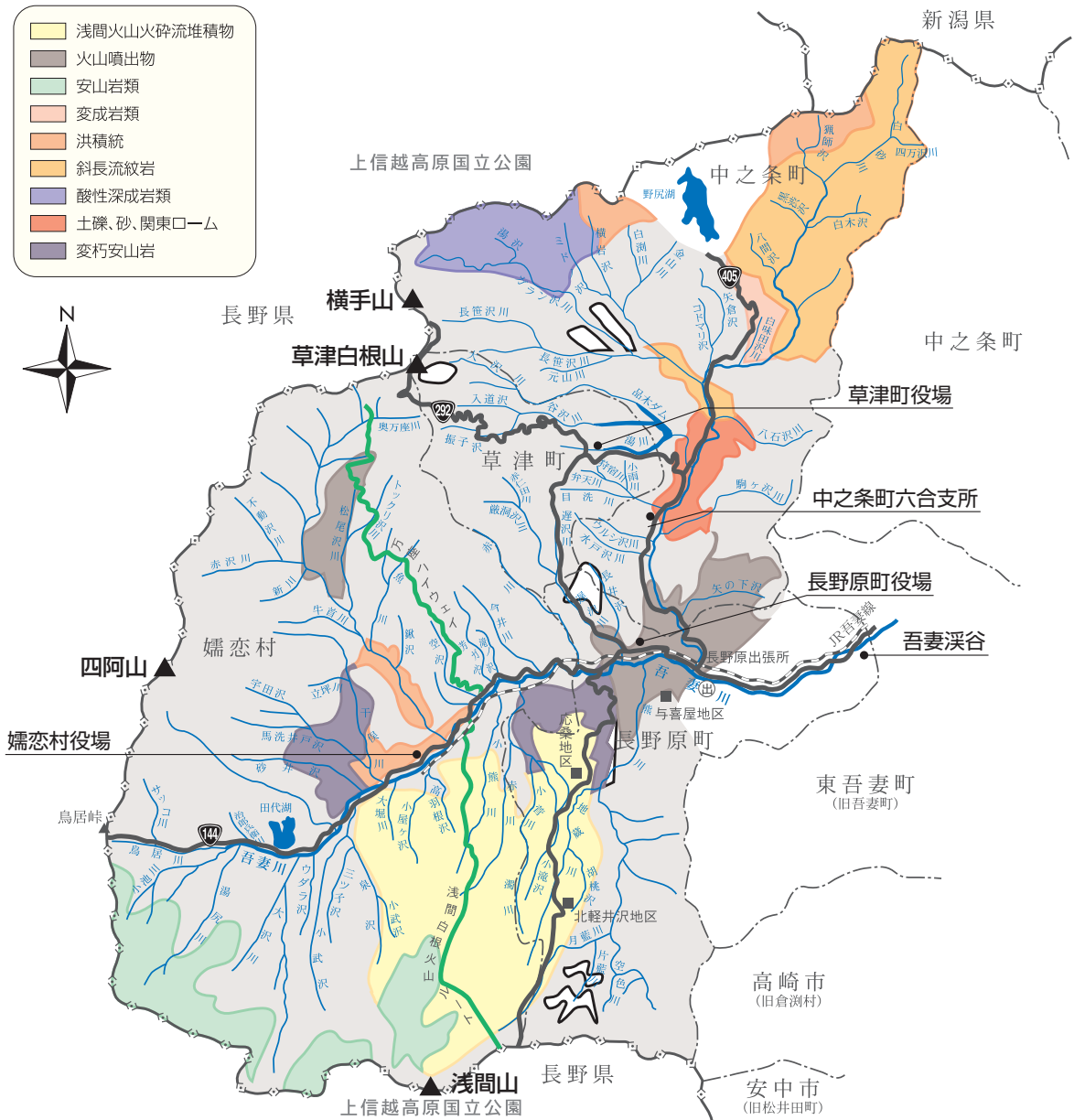
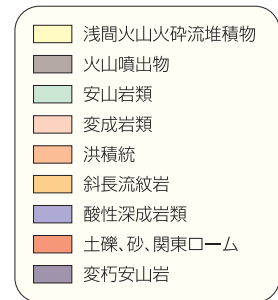
■吾妻川流域の地質

上流域の本川を挟んで北部地域は、草津白根火山噴出物が、南部地域には浅間火山噴出物が広く分布しています。これらの噴出物は溶岩流、火砕流泥流等の堆積物からなり、火砕流は、こぶし大以下の軽

石流と、同質の火山灰によって構成され溶結凝灰岩を挟んでいます。泥流はかつての放射谷を埋めて堆積しており、削剥は著しく洪水時には容易に流出され、土石の供給源となっています。

(出典：群馬の砂防)

■吾妻川流域の地質

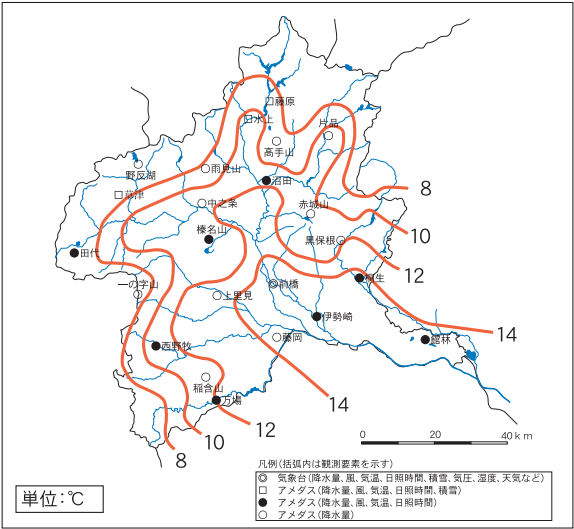


吾妻川流域の気象

群馬県の気象概況

群馬県は、新潟県、福島県、栃木県、埼玉県、長野県の5県に囲まれた、海を持たない内陸県であり、気候は太平洋沿岸気候となっています。しかし、県内は山と谷と平野部が混在し、北部では標高2,000mを超える山々から、関東平野に連なる平野部では標高10m程度と高低の変化が大きく、山岳気候、平地気候が混在しています。その標高による違いから、厳冬期の北部では氷点下10℃以下まで下降する一方、盛夏期の南東部の平野部では40℃近くまで気温が上昇するなど、地域的な気候の変化が大きくなっています。

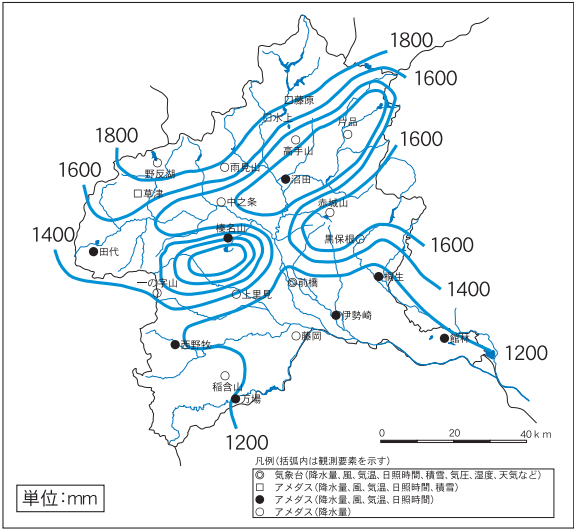
■年間平均気温分布図（平年値：1979～2000年）



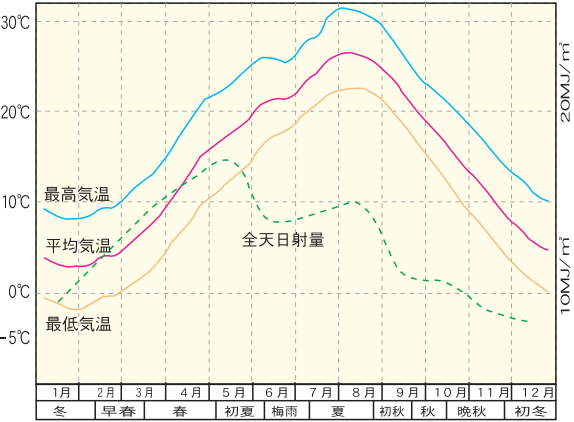
群馬県の年間平均気温をみてみると、地形に大きく影響され複雑に分布していることが分かります。南東部の平野部では13℃以上あり館林の14.6℃が最も高くなっていますが、西部から北部にかけての山沿いでは10℃以下であり、県西部の高冷地である嬬恋村田代では7.1℃となっています。

群馬県の年間総降水量は南海上から暖湿流の影響を受けやすい榛名山、赤城山で1,600mmから2,000mmと多く、冬期間降雪が多い北部山岳地域で1,800mm以上となっていますが、沼田、片品では比較的少なくなっています。

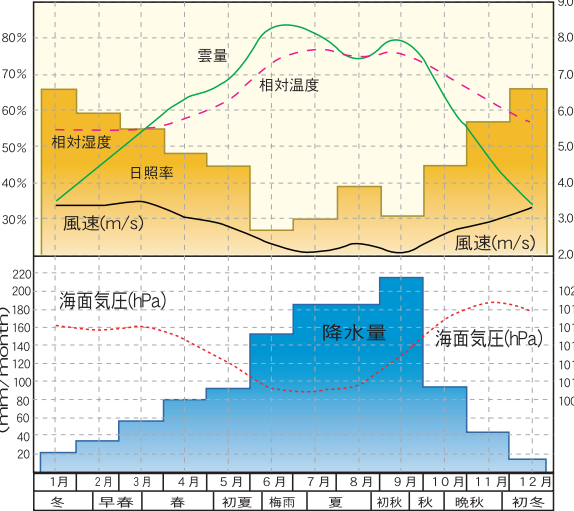
■年間総降水量分布図（平年値：1979～2000年）



■前橋の各種気象要素の年変化（年平均）



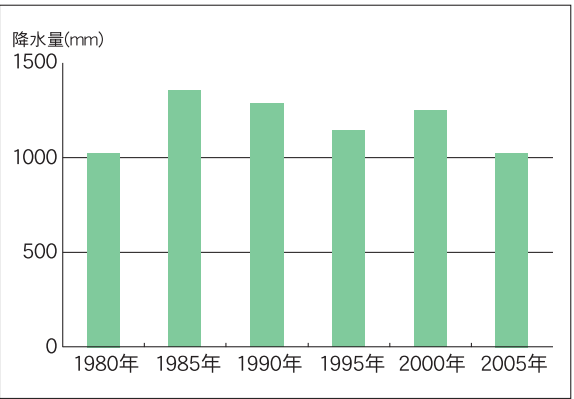
※資料：前橋地方気象台



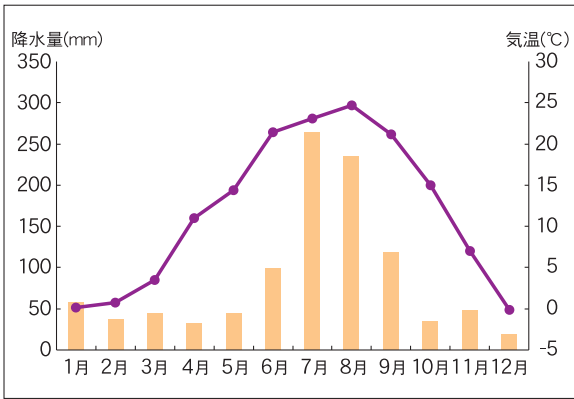
吾妻川流域の気温と降水量

※気象庁 沼田観測所

■年降水量の推移



■月別気温・降水量（平成17年）

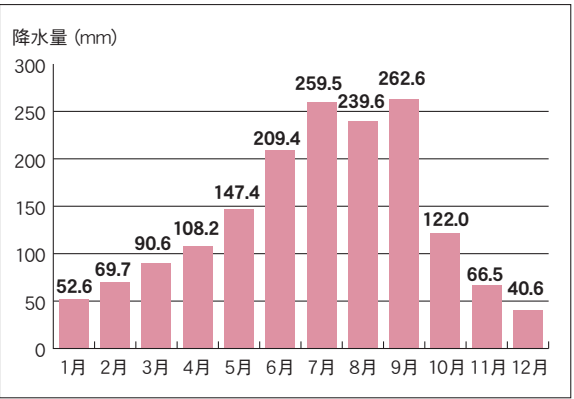


※気象庁 中之条観測所

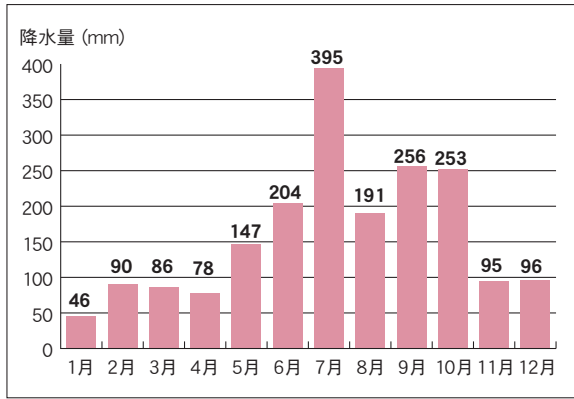
流域内各地点の降水量データ

※資料：気象庁

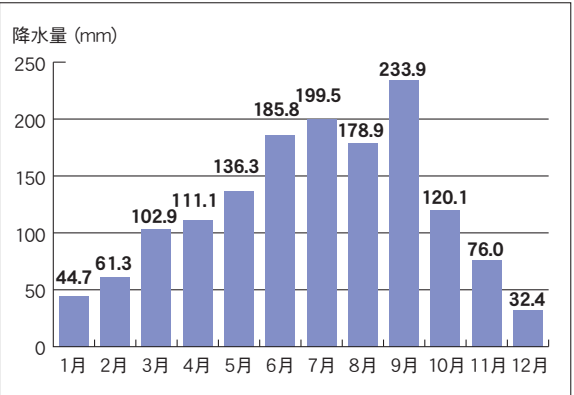
■草津 月別平均降水量（1979～2000年）



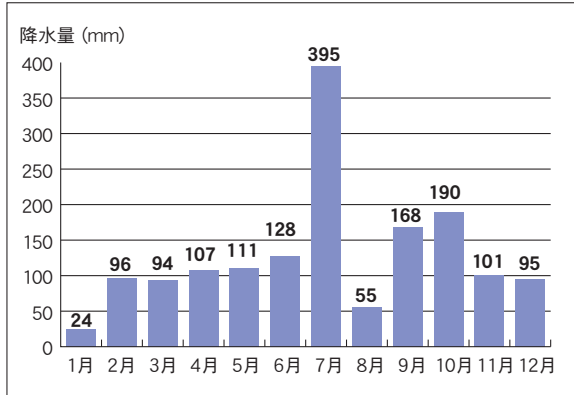
■草津 月別合計降水量（平成17年）



■田代 月別平均降水量（1979～2000年）



■田代 月別合計降水量（平成17年）



群馬県の自然災害年表

※ 昭和56年までは「群馬県気象災害史」を、昭和57年以降は群馬県発行の「平成16年度消防防災年報」と災害状況については「上毛新聞」を参照している。
※ 風害・水害・風水害・雪害・雷雨害・ひょう害・火山災害・地すべり災害について記している。
※ 利根川水系砂防事務所の管轄区域に被害を与えていないものは記載していない。
※ に塗られた部分は火山関連の災害を意味する。

和暦	西暦	災害種別(起因)	月日	地域	被害状況
明治43	1910	台風	8月6日～14日	県全域	死者284名、負傷者142名、行方不明者22名、家屋流失倒壊埋没1,476戸、半壊627戸、床上浸水15,579戸、床下浸水11,575戸、道路決壊1,581か所、橋梁流失破損2,039か所、その他農業被害甚大(気象要覧128号) 豪雨のため18万、町歩の耕地を侵し2,400万円の損害(群馬郡誌)
					◀ 明治43年の水害 [群馬県立文書館所蔵]
昭和7	1932	草津白根山噴火	10月1日	白根山周辺	13時54分湯釜内壁、外側にて爆発。山頂では降石、灰著しく、10月中活動続く。硫黄採掘の工夫降石により被害。死者2名、負傷者3名。(気象要覧)
昭和10	1935	台風及び副低	9月24日～26日	県全域	死者218名、負傷者190名、行方不明39名、家屋全壊467戸、半壊460戸、流失859戸、床上浸水4,011戸、床下浸水13,320戸、堤防決壊380か所、橋梁流失200か所、道路損壊800か所、田畑流失浸水8,636町、稲作風水害9,050町(気象年報・気象要覧433号)
					◀ 昭和10年災害
昭和12	1937	前線	7月14日～17日	県全域	碓氷郡里見村（現：群馬県高崎市） 死者4名、負傷者7名、行方不明者2名、家屋全壊9戸、半壊1戸、流失19戸、床上浸水491戸、床下浸水2,114戸、堤防決壊11か所、橋梁流失52か所、道路損壊58か所、農作物被害7,325町歩119万円(気象年報・気象要覧455号)
昭和13	1938	台風	8月31日～9月1日	県全域	死者32名、負傷者33名、行方不明者2名、家屋全壊238戸、半壊181戸、流失214戸、床上浸水1,667戸、床下浸水6,954戸、橋梁流失277か所、堤防決壊38か所、道路損壊2,518か所、畑流失370町歩、田畑冠水4,200町歩、農作物被害230万円(台風調査報告・気象要覧469号)
昭和22	1947	浅間山噴火	8月14日	浅間山周辺	12時17分砲声音をたて爆発、山頂付近噴石落下し、また西側湯の平で山火事が起きる。登山者11名落石で死亡。(浅間山爆発史集)
		カスリーン台風	9月14日～15日	県全域	紀伊半島南海上より北東進し房総をかすめた台風で降水量多く、既往の大水害である。死者592名、負傷者1,231名、行方不明者107名、家屋全壊1,936戸、半壊1,948戸、床上浸水31,247戸、床下浸水39,808戸、水田流失5,063町、田畑冠水24,403町、畑流失5,255町、堤防決壊341か所、橋梁流失336か所、道路損壊484か所、鉄道被害178件、稲作被害22,300町、減収量23万石(カスリーン台風調査報告)
					◀ 深山須田付近の状況(現：群馬県渋川市) [出典：「沼尾川流域災害記録」敷島村役場]
昭和23	1948	アイオン台風	9月15日～16日	県全域	伊豆半島南端をかすめて北東進し房総を縦断して鹿島灘へ抜けた台風。死者6名、負傷者5名、行方不明者4名、家屋全壊8戸、半壊9戸、流失45戸、床上浸水341戸、床下浸水3,616戸、堤防決壊86か所、橋梁流失134か所、道路損壊147か所、田畑流失10,706町(気象要覧589号)
昭和24	1949	キティ台風	8月30日～9月1日	県全域	八丈の西方より北上し前橋の西方を通り、佐渡の東へ抜けた台風。死者44名、負傷者89名、行方不明5名、家屋全壊326戸、半壊1,834戸、流失114戸、床上浸水758戸、床下浸水2,535戸、水田流失494町、水田冠水1,216町、堤防決壊193か所、橋梁流失339か所、道路損壊555か所、鉄道被害50か所、稲作被害19,210町、減収量66万石(気象要覧600号)
昭和34	1959	伊勢湾台風(台風15号)	9月26日～27日	県全域	伊勢湾に大きな被害を出した台風で、県内でも風雨ともに強く、死者10名、負傷者27名、家屋全壊536戸、半壊1,826戸、一部損壊8,226戸、床上浸水847戸、床下浸水5,254戸、農作物被害52,200ha、田畑冠水567ha、堤防決壊4か所、橋梁流失13か所、道路損壊52か所、がけ崩れ33か所、通信施設被害1,894件、被世帯数3,004戸(台風15号速報・気象年報)
					◀ 流された旧草軽鉄道の鉄橋(嬬恋村三原地区) [写真提供：宮崎慎治氏]

和暦	西暦	災害種別(起因)	月日	地域	被害状況
昭和41	1966	台風26号	9月25日	県全域	進路の東側で風による風による被害が大きく死者、家屋の倒壊、農作物被害、停電、交通杜絶などがあった。死者15名、負傷者92名、住宅全半壊1,883戸、道路損壊49か所、橋梁流失17か所、農作物被害面積45,729ha、山崩れ68か所など(県警調べ)
昭和49	1974	台風16号	8月31日～9月2日	県内各地	住家流失2戸、床下浸水22戸、耕地流失埋没0.5ha、冠水32ha、道路損壊8か所、橋梁損壊4か所、鉄軌道損壊2か所、通信障害41回線、鉄道一時不通(県警調べ)。農作物被害約6億円(県農政部調べ)
昭和51	1976	草津白根山滞留火山ガス	8月3日	白根山周辺	白根沢(弁天沢)で滞留火山ガスにより登山者3名死亡。
昭和56	1981	台風15号	8月22日～23日	県全域	死者1名、負傷者2名、家屋全壊6戸、半壊6戸、一部損壊132戸、床上浸水176戸、床下浸水2,293戸、罹災世帯192世帯654人、山崩れ437件、被害総額150億円(県災害資料)
昭和57	1982	台風10号	7月31日～8月2日	県全域	台風の本州横断により激しい暴風雨に見舞われ、土砂崩れなどで多くの死傷者を出した。死者5名、行方不明者1名、負傷者52名、家屋全壊56戸、半壊219戸、床上浸水614戸、床下浸水5121戸、農業被害21ha。
昭和58	1983	台風5・6号	8月15日～19日	県北部・西部 烏川	負傷者1名、半壊2戸、床上浸水6戸、床下浸水212戸、農業被害2,321ha。長時間の降雨や土砂崩れにより碓氷峠周辺では道路閉鎖が相次いだ。
平成3	1991	地すべり	10月16日	譲原	平成3年10月16日、台風に伴う集中豪雨のため地すべり活動が再発。主要地方道鬼石・中里線(現国道462号)に亀裂が生じた。10月16日～21日まで全面通行止。その後、565日間片側通行の規制が行なわれた。
					◀ 地すべりによる国道462号通行止めの状況(現：群馬県藤岡市譲原)
平成10	1998	台風5号	9月16日	県全域	県内を暴風域に巻き込み、各地で猛威を振るった。負傷者1名、家屋全壊1戸、半壊2戸、床上浸水50戸、床下浸水265戸。
平成11	1999	熱帯低気圧豪雨	8月14日	県各地	日本列島を北上する熱帯低気圧の影響で西毛地方を中心として豪雨に見舞われ、道路の通行止めや土砂崩れ、床下浸水などの被害が相次いだ。死者1名、負傷者4名、家屋全壊4戸、半壊7戸、床上浸水49戸、床下浸水560戸。
					◀ 豪雨による被害(上野村野栗沢川)
平成13	2001	台風15号	9月9日～11日	県全域	台風の影響で、県内は激しい風雨に見舞われ、各地で被害が相次いだ。上信越自動車道では点検作業中の作業員が土砂崩れに巻き込まれ、2名が死亡し、3名が負傷した。死者3名、行方不明者1名、負傷者3名、床上浸水11戸、床下浸水111戸、農業被害123ha。
				吾妻川	嬬恋村では、万座川に男性が流され行方不明。また、万座温泉へ通じる道路が不通となり、観光客ら780人余りが足止めされた。
平成16	2004	浅間山噴火	9月1日～12月	浅間山周辺	9月1日に21年ぶりに爆発し活動を再開。9月1日の爆発は、大きい爆発音と空振を伴い噴石を飛散。北東6kmまで最大3cmの火山礫が降下し群馬県・福島県の一部で降灰。9月14～18日、小噴火がしばしば発生。群馬県・埼玉県・東京都・神奈川県・千葉県の一部でも降灰。9月23日、爆発。中程度の爆発音と空振が発生。北北東4kmに最大3cmの火山礫が降下し群馬県・新潟県・山形県の一部で降灰。9月29日 爆発。弱い爆発音と空振が発生。北4kmに最大4cmの火山礫が降下し群馬県嬬恋村・長野原町・草津町などの一部で降灰。11月14日、爆発。大きい爆発音と中程度の空振を伴い、山頂の東4kmに直径4～5cm火山礫が降下、長野県、群馬県、栃木県の一部で降灰。
					▲ 2004年9月14日の浅間山の小噴火

吾妻川流域で起きた主な災害

■天明3年(1783) 浅間山噴火

天明3年(1783年)、4月から7月初旬(旧暦)まで断続的に活動が続けていた浅間山は、7月8日(旧暦)に大噴火を起こしました。このとき発生した火砕流に嬬恋村(旧鎌原村)では一村152戸が飲み込まれて483名が死亡したほか、群馬県下で1,400名を超す犠牲者を出しました。

天明3年の浅間山噴火は直後に吾妻川水害を発生させ、さらには3年後の天明6年に利根川流域全体に洪水を引き起こしました。

この浅間山噴火による利根川の河床上昇は各地での水害激化の要因となり、利根川治水に重要な影響を及ぼすことになりました。

浅間山の噴火により大量の溶岩と火山灰が噴出し、溶岩流は北側の吾妻川流域へ火砕流となり山腹を流下しました。流下した溶岩は三派に分かれ、一派は東方の分去り茶屋に、もう一派は西方の大笹方面に、残りの一派は他の二派の中央を真直ぐ北流しました。流下した溶岩は、大きな火砕流となって山腹を走り、分去り茶屋に向かったものは、小熊沢川と赤川に流れ込み、旧小宿村・常林寺を経て芦生田集落を埋没させました。また、大笹方面に流下したものは、大前で吾妻川に流れ込みました。そして中央を北流したものは、旧鎌原村を直撃し一村を壊滅させた上で、現在のJR吾妻線万座・鹿沢口駅東側で吾妻川に流下しました。この中央に流下した火砕流が最大のもので、「鎌原火砕流」と呼ばれ、その流量は1億m³とも推定されています。

浅間山噴火による火砕流の流下により旧鎌原村では一村約100戸が呑まれ、483名が死亡したほか、長野原210名、



天明3年の浅間山噴火を描いた「夜分大焼之図」
[所蔵：美斉津洋夫氏]

川島128名、南牧104名など多くの犠牲者を出しました。

また、浅間山噴火は大量の火山灰を広範囲に堆積させました。火山灰は主に東流し、遠くは江戸、銚子にまで達し、特に碓氷峠から倉賀野、新町の間は田畑全て降灰し、その形状すら判別できない状況であったといいます。各地の被害を合わせると、降灰の重みだけで70軒が潰れ、65軒が大破しました。ほぼ関東一円に堆積した火山灰は、農作物の生育にも影響を及ぼし、既に始まっていた天明の大飢饉に拍車をかけ、天明飢饉の進行に決定的役割を持つこととなりました。また、大量に堆積した火山灰は、利根川本川に大量の土砂を流出させた天明3年の水害とともに、天明6年の水害といった二次、三次被害を引き起こす要因ともなりました。

▶参考文献：「利根川の直轄砂防50年のあゆみ」、「群馬の砂防」

■浅間山噴火の被害状況

集 落 名	死者数	流家数	集 落 名	死者数	流家数	集 落 名	死者数	流家数	集 落 名	死者数	流家数
鎌 原	483	152	長 野 原	210		矢 倉	11	40	伊 勢 町		2
西 窪	42	21	坪 井	8		厚 田	7		祖 母 島		28
与 喜 屋	55		立 石		3	泉 沢	8		新 巻		19
大 前	74	100	川原畑	4	21	青 山	1	17	箱 島	3	
芦生田	23	43	川原湯	18		岩 下	11	24	市 城		21
赤羽根	15		川 戸	7	10	横 谷	17	29	植 栗	10	
羽根尾	20	51	岩 井	1		郷 原	18		小野子	1	17
中 居	10		川 島	128	150	原 町		16	金 井	10	
小 宿	57	60	三 島	16	57	五 町 田	10		村 上	13	70
今 井	36		松 尾	3	6	岡崎新田	9		南 牧	104	
									計	1,443	957

※資料：「吾妻郡誌」

●埋没した鎌原村の発掘

天明3年、浅間山の噴火に伴って発生した火砕流は、浅間山の北麓吾妻川の右支溪小熊沢と赤川に挟まれた大地上にあった鎌原村を壊滅させました。地中の村と化した鎌原村についての史料は少ないですが、災害当時の戸数は100戸前後、人口は570人ほどと推測されています。

鎌原村の本格的な発掘調査は、昭和54年から始まりしました。「浅間山麓埋没村落総合調査会」(昭和54、56年)、および、嬬恋村教育委員会(昭和55年、昭和60～62年、平成元～3年)により実施されました。観音堂の石段、十日ノ窪の埋没家屋、延命寺跡などが調査され、遺体や生活用品、仏具などを発見しました。鎌原村の災害状況を示す古文書や記録類も多く、言い伝えもあります。しかし、発掘調査によって得られた知見には新事実も多く、噴火で埋もれた近世の村の様子が判明してきています。



観音堂石段の遭難者
[所蔵：嬬恋村郷土資料館]



観音堂と石段（嬬恋村）



延命寺石標（嬬恋村）

▶参考文献：「鎌原村発掘調査概報」

平成16年(2004) 浅間山噴火



9月1日に21年ぶりに爆発して活動を再開。9月1日の爆発は、大きい爆発音と空振を伴い、噴石を飛散、山頂の北東6kmまで最大3cmの火山礫が降下、北東方向の群馬県・福島県（最も遠いところは相馬市）の一部で降灰。9月14～18日 小噴火がしばしば発生、特に16日未明～17日夕方はほぼ連続的に発生。南東の軽井沢町には多量の降灰があり、群馬県・埼玉県・東京都・神奈川県・千葉県（最も遠いところは勝浦市）の一部でも降灰。この頃火口底に新しい溶岩が出現。9月23日 爆発。中程度の爆発音と空振が発生。爆発地震により軽井沢町追分・御代田町御代田で震度1。山頂の北北東4kmに最大3cmの火山礫が降下、北北東方向の群馬県・新潟県・山形県（最も遠いところは東根市）の一部で降灰。9月29日 爆発。弱い爆発音と空振が発生。爆発地震により軽井沢町追分・御代田町御代田で震度1を観測。山頂の北4kmに最大4cmの火山礫が降下、北から北北東方向の群馬県嬬恋村・長野原町・草津町等の一部で降灰。11月14日爆発。大きい爆発音と中程度の空振を伴い、山頂の東4kmに直径4～5cm火山礫（最大は7.5cm）が降下、長野県、群馬県、栃木県の一部で降灰。

出典：日本活火山総覧（第3版）（気象庁編2005）

自然災害MEMO

大雨による工事現場での被災事例

平成18年12月26日～27日、群馬県沼田市利根町大字根利地先で行われていた「新地川第一・第二床固工工事」の現場において、総雨量約80mmの悪天候による河川増水で設計流量以上の水量により土砂が流出仮締切が決壊し、掘削床付面へ土砂、泥水が流入した。この結果、第一・第二床固工ともに水深約4.0mまで溜まった。なお、仮締切の決壊時は夜中であったため、幸い被災者はいなかった。



増水前



増水後



水位減少後

■昭和34年（1959）伊勢湾台風

昭和34年（1959年）9月21日にマリアナ諸島の東海上で発生した台風15号は、中心気圧が1日に91hPa下がるなど猛烈に発達し、非常に広い暴風域を伴いました。最盛期を過ぎた後もあまり衰えることなく北上し、26日18時頃和歌山県潮岬の西に上陸しました。上陸後6時間余りで本州を縦断、富山市の東から日本海に進み、北陸、東北地方の日本海沿いを北上し、東北地方北部を通して太平洋側に出ました。暴風圏が非常に大きく、伊勢湾岸の三重、愛知両県をはじめとして39都道府県に被害をもたらしました。

紀伊半島沿岸一体と伊勢湾沿岸では高潮、強風、河川の氾濫により甚大な被害を受け、特に愛知県では、名古屋市や弥富町、知多半島で激しい暴風雨の下、高潮により短時間のうちに大規模な浸水が起り、死者・行方不明者が3,300名以上に達する大きな被害となりました。また三重県では、桑名市などで同様に高潮の被害を受け、死者・行方不明者が1,200名以上となりました。この他、台風が通過した奈良県や岐阜県でも、それぞれ100名前後の死者・行方不明者がありました。

▶参考文献：「群馬の砂防」、気象庁資料



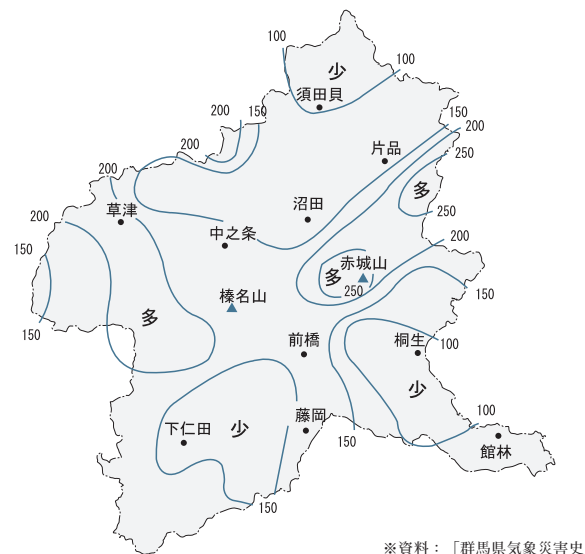
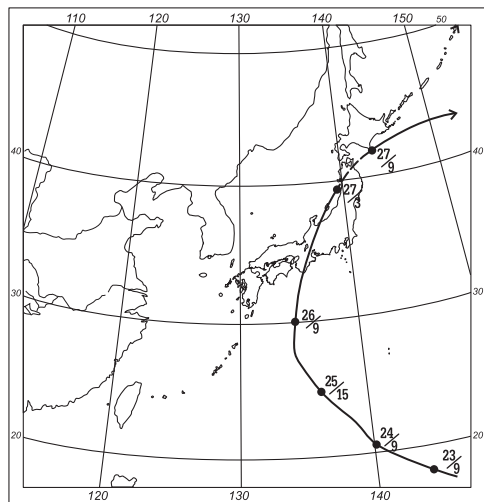
流された草軽電鉄の鉄橋（嬬恋村三原）

■伊勢湾台風の被害状況

死者	10名
負傷者	27名
家屋全壊	536戸
家屋半壊	1,826戸
一部損壊家屋	8,226戸
床上浸水	847戸
床下浸水	5,254戸
（群馬県下）	

※資料：
「群馬県気象災害史」
「群馬の砂防」

■台風の進路と天気図



※資料：「群馬県気象災害史」

■昭和56年（1981）台風15号

昭和56年（1981年）8月の台風15号は、昭和40年8月の台風17号以来16年ぶりに関東に上陸した台風でした。

南海上をゆっくり北上していた台風15号は、23日4時過ぎ千葉県館山市付近に上陸しました。上陸時の中心気圧は965mbと、大型で並みの勢力でした。台風は上陸後も勢力が衰えず、加速しながら関東地方東部を北上し、仙台・北海道の西海上に抜けました。

この台風は東日本・北日本に影響を与え、関東地方では22から23日にかけての約30時間という比較的短い時間に強雨が降りました。特に利根川と鬼怒川の上流山間部では、総雨量300～500mmに達しました。

利根川水系は、随所で河岸護岸崩壊、漏水、根固め流出などの被害が生じました。

▶参考文献：「群馬の砂防」、「カスリーン台風写真集」



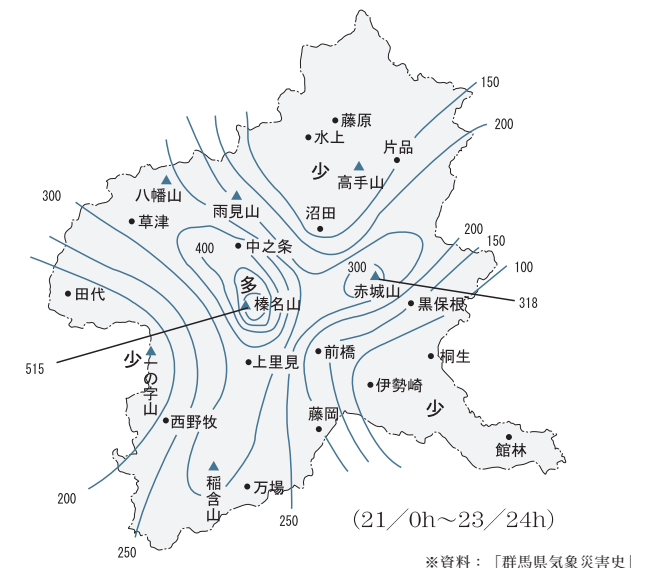
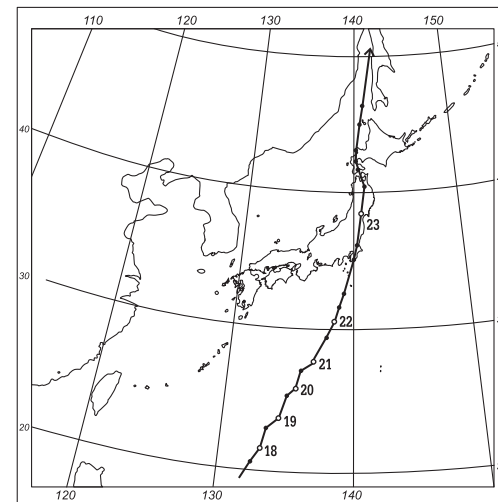
台風15号の被害状況（群馬県嬬恋村三原付近）【転載：群馬の砂防】

■台風15号での被害状況

死者	1名
負傷者	2名
家屋全壊	6戸
家屋半壊	6戸
床上浸水	176戸
床下浸水	2,293戸
（群馬県下）	

資料：「平成16年度消防防災年報」

■台風の進路と天気図



※資料：「群馬県気象災害史」